

平成30年(2018) 県政記録 いしかわ



はじめに

平成30年（2018年）は、1月からの大雪に始まり、夏の豪雨や酷暑、秋の台風、そして、大阪北部や北海道胆振地方での地震と、全国的に大規模な災害が相次いだ年でした。

石川県においても、1月末に、記録的な寒波による能登地方を中心とした水道管の凍結により、広範囲で断水が発生したことをはじめ、2月には、加賀地方を中心に、金沢市の積雪が17年ぶりに87cmを記録した大雪、さらに8月末から9月にかけては、中能登地域を中心とした大雨により、河川の越水や道路の損壊などが生じるなど、各地で多くの災害が発生しました。

一方、北陸新幹線金沢開業4年目となる2018年も開業効果が持続し、JRからは、首都圏からの人の流れとして定着したと評価をされ、また、県内中小企業の頑張りに新幹線開業効果も相まって、日銀金沢支店が12ヶ月連続で北陸の景気を「拡大している」と判断するなど、経済状況が好調な年でもありました。

金沢港については、寄港するクルーズ船が日本海側トップクラスとなる47本を数え、さらに日本を代表する港である横浜港とクルーズの誘致に特化した協定を締結しました。

空の便では、のと里山空港の開港15年目の利用者数が過去最高となり、12年ぶりに全日空から販売促進協力金をいただいたほか、小松空港も、国内線、国際線とも堅調な利用状況で推移し、さらには、キャセイパシフィック航空が小松・香港定期便の新規就航を発表しました。

また、県民生活の安全・安心の確保については、新たな県立中央病院が1月に開院したほか、ドクターヘリが9月に運航を開始しました。

そして、「能登のアマメハギ」がユネスコ無形文化遺産に登録決定しました。

この県政記録は、こうした平成30年における県政の成果をまとめたものです。幅広くご活用いただき、県政に対してより一層のご理解を賜りますようお願い申し上げます。

目次

平成30年県政の主な出来事 ページ

1月	2
2月	4
3月	6
4月	8
5月	12
6月	14
7月	16
8月	18
9月	22
10月	24
11月	26
12月	30
石川県民の歌	32

<表紙写真>

(上) 県立中央病院
(下) 17年ぶりの大雪

金沢駅周辺
(2018年10月21日撮影)

1月の 主な出来事

- 9日 ●新県立中央病院の開院
- 13日 ●自主防災組織リーダー育成研修会
(～14日、27日～28日、12月1日～2日、8日～9日、15日～16日)
- 14日 ●シルクウェイ・ウエスト・エアラインズ国際貨物便の定期便が小松空港に就航
- 18日 ●タイガーエア台湾小松・台北便の新規就航
- 27日 ●「冬の観能の夕べ」公演
(2月3日、10日、3月3日、10日)
- 28日 ●能登地域を中心とした水道管の凍結による断水被害(～2月7日)
- 29日 ●(株)大和が工場増設を表明
- 31日 ●平昌オリンピック出場の石川晴菜選手が来庁

新県立中央病院の開院 (9日)

2017年9月に新県立中央病院が竣工し、年末年始に旧病院から新病院への移転作業を行い、1月9日から外来診療を開始しました。

新病院は地上10階建てで、屋上にはドクターヘリの拠点となるヘリポートを備えています。

また、最新の高度医療機器を配備するとともに、全国で初めて総合母子医療センターを手術室や小児病棟と同一フロアに配置することにより、産科と小児科が連携し、リスクの高い出産に迅速に対処するなど、子育ての不安の一つである母子の健康に対応できる環境を整備しました。

さらに、女性特有の病気の患者が、プライバシーに配慮された環境で検査や診察を受けられる女性専用外来エリアを全国で初めて設置したほか、患者や家族の視点に立った快適な療養環境とするため、全てのベッドに明るい光がそそぐ個室の4床室を整備しました。

今後とも新病院が、医療の進歩に的確に対応し、高度専門医療を提供することにより、県民の皆様の安全・安心の確保を担う、基幹病院としての使命を、より一層果たしていきます。



タイガーエア台湾 小松・台北便の新規就航 (18日)

タイガーエア台湾が、小松・台北便に週2便で新規就航しました。国際旅客定期便の就航は10年ぶりとなります。

また、既に週5便を運航するエバー航空(台湾)と合わせると、小松・台北便が毎日運航することになりました。



能登地域を中心とした水道管の凍結による断水被害 (28日～2月7日)

1月下旬の記録的な寒波により、能登地域を中心に水道管の凍結による漏水が相次ぎ、能登地域の9市町では11,429世帯で断水が発生しました。(断水期間は1月28日から2月7日)

石川県では、被害の大きい1市3町(輪島市、志賀町、中能登町、能登町)に職員を派遣したほか、関係市町からの要請を受け、日本水道協会石川県支部と協力し、給水車等の派遣を行うとともに、自衛隊に対し、輪島市での給水活動について派遣要請を行うなど、市町への支援を実施しました。



(株)大和が工場増設を表明 (29日)



全国の高齢者施設、医療関係向け加工食品の製造・販売を行う(株)大和から、高齢者施設向け惣菜などのチルド食品の生産能力の倍増等による生産体制強化のため、小松市串工業団地の本社工場敷地内で、工場を増設する旨の表明がありました。

同社は、地元で女性や高齢者が活躍できる雇用の場として期待されており、今回の工場増設により、新たに約75人を雇用する計画です。

平昌オリンピック出場の石川晴菜選手が来庁 (31日)

平昌オリンピック スキー・アルペン女子大回転に出場する、金沢市出身の石川晴菜選手が、知事を表敬訪問しました。

石川選手は、前年12月に行われた全日本選手権(女子大回転)で優勝を果たし、この競技で石川県出身者初となるオリンピック出場を決めました。本番では積極的な滑りを見せ、33位となりました。

そのほか、輪島市出身の小口貴子選手も女子スケルトンで平昌オリンピックに出場し、19位の成績を残しました。



2月の 主な出来事

17年ぶりの大雪への対応と対策

- 石川県道路雪害対策本部の設置(2月6日～21日)
- 国道8号冬期道路交通確保対策会議による福井県側の関係機関との連携強化(4月10日、5月17日、8月6日、12月18日)
- 道路除雪連携会議による市町との連携強化(1月29日、3月22日、8月10日、11月13日)

- 1日 ●金沢の冬の誘客イベント「冬の夜のマジカルセッション“出逢い”」(～25日)
- 2日 ●金沢城・兼六園四季物語(～20日、3月31日～4月8日、5月2日～6日、6月1日～3日、29日～30日、7月6日～7日、8月10日～12日、9月23日～27日、11月9日～12月1日)
- 3日 ●兼六園周辺文化の森ミュージアムウィーク(～12日、4月28日～5月6日、8月3日～19日、10月21日～11月4日)
- 6日 ●いしかわ歴史遺産の認定
- 8日 ●いしかわ伝統工芸フェア2018(～10日)
- いしかわ百万石マルシェ2018冬
- 18日 ●防災士スキルアップ研修(3月3日、10日、7月29日、8月5日、26日)
- 21日 ●石川県国民保護図上訓練

17年ぶりの大雪への対応と対策

2月の金沢市の積雪が、平成に入り2番目となる87cmに達するなど、2001年以来、17年ぶりの記録的な大雪となりました。

広域的な幹線道路では、北陸自動車道が通行止めとなり、国道8号に交通が集中し渋滞となったところに大型車の立ち往生が発生。さらに降り続いた雪の影響で、石川・福井県境部において最大1500台もの車両が約3日にわたり身動きが取れない状況となりました。こうして国道8号と北陸自動車道が同時に通行止めとなり、地域住民の生活に大きな支障をきたしました。

一方、県内では、生活道路を中心に除雪作業の遅れや、県道と市町道の交差点における除雪タイミングの違いから、一部で交通渋滞が発生するなど、交通に大きな支障が生じました。



石川県道路雪害対策本部の設置 (6日～21日)

国道8号冬期道路交通確保対策会議により石川・福井県境部の除雪連携を強化 (4月10日、5月17日、8月6日、12月18日)

道路除雪連携会議により県と市町の除雪連携を強化 (1月29日、3月22日、8月10日、11月13日)

2月6日、大雪への対応として、土木部長を本部長とした道路除雪対策本部から、知事を本部長とする道路雪害対策本部へ体制を移行し、除排雪作業の強化を図り、昼夜を問わず交通機能の回復に取り組みました。

21日に県内における除排雪作業が概ね完了したことから、約15日間続いた道路雪害対策本部を道路除雪対策本部へと移行しました。

今後の大雪への対策として、国、中日本高速道路㈱、石川県、福井県などで構成する「国道8号冬期道路交通確保対策会議」を立ち上げ、北陸自動車道と国道8号が同時に通行止めとならないように、連携の強化を図りました。

石川県内においても、県と市町などで構成する「道路除雪連携会議」を立ち上げ、大雪時には情報を共有し、除雪作業の連携を図ることで、冬期交通の確保に努めることを取りまとめました。



いしかわ歴史遺産の認定 (6日)

いしかわ歴史遺産は、全国に石川県の魅力を発信し、観光誘客や地域活性化を図ることを目的に、世代を超えて受け継がれている歴史、伝承、風習や有形・無形の文化財をそれぞれ関連づけて、その魅力をわかりやすく説明したストーリーを認定するもので、県が2015年度に創設した制度です。

3年目となる今回は、「能登国府を探る ～能登立国 1300年～」(七尾市) など3件を認定し、これまでと合わせて、計11件の認定となりました。



■認定されたストーリー

七尾市	能登国府を探る ～能登立国 1300年～
輪島市、羽咋市	能登の禅の古刹と古道を歩く ～永光寺から總持寺へ～
中能登町、羽咋市、志賀町	能登の王墓 ～半島を舞台に躍動したノトの王～

3月の 主な出来事

● 澁谷工業(株)が工場の増設を決定

● 第7次石川県医療計画の策定

8日 ● 「輪島の海女漁の技術」が国の重要無形民俗文化財に指定

10日 ● いしかわ就職フェア

11日 ● 知事選挙で谷本正憲知事が7選

17日 ● 「ひゃくまんさん」ファンミーティング

19日 ● 光ヶ丘団地県営住宅68号棟の完成

20日 ● 県立高松病院管理診療棟改築の基本設計の策定、実施設計に着手

● 大雪による被災農家への緊急支援を決定

22日 ● 災害救助犬審査会

28日 ● (株)トランテックスが工場の増設を表明

29日 ● 県内全ての工区で新幹線高架橋工事等に着手

31日 ● 石川県長寿社会プラン2018の策定

澁谷工業(株)が工場の増設を決定

無菌充填のボトリングシステム国内トップメーカーである澁谷工業(株)が無菌充填システムの需要増加に伴い、精密部品の生産体制を強化するため、金沢市金沢テクノパーク内に新たに土地を取得し、工場を増設することを決定しました。

新工場の従業員数は、新規雇用を含め、約30人を配置する計画となっています。



「輪島の海女漁の技術」が国の重要無形民俗文化財に指定 (8日)



舳倉島や七ツ島を主な漁場に、貝や海藻などを採取する、伝統的な素潜り漁、「輪島の海女漁の技術」が重要無形民俗文化財に指定されました。

これにより、石川県の重要無形民俗文化財は8件となりました。

いしかわ就職フェア (10日)

371社の石川県内企業が一堂に会する北陸最大級の合同企業説明会、いしかわ就職フェアを開催しました。

会場には1,354人の学生たちが訪れ、企業の魅力や職場の雰囲気などについての理解を深めました。



(株)トランテックスが工場の増設を表明 (28日)

国内トップクラスのトラック荷台メーカーである(株)トランテックスから、中小型トラックの需要増加に伴い、生産能力の増強や納期の短縮を図るため、白山市山島工業団地内で新たに土地を取得し、工場を増設する旨の表明がありました。

新工場の従業員数は、新規雇用を含め約30人を配置する計画となっています。



県内全ての工区で新幹線高架橋工事等に着手 (29日)

2022年度末までの開業を目指し整備が進められている北陸新幹線金沢・敦賀間において、白山市内の2工区の高架橋工事に着手しました。

これにより、石川県内区間全ての工区で工事が進められることとなりました。

北陸新幹線は、2015年3月14日に開業し、2019年3月13日までの利用者数累計(上越妙高・糸魚川間)は3,500万人を突破しています。

北陸新幹線の開業効果により、県内の観光客の入込み数は開業前(2014年)と比較すると、2年連続で約300万人増加しています。



4月の 主な出来事

- 1日 ●県の組織機構を改革
健康福祉部
「県立中央病院建設推進室」を廃止
企画振興部
「並行在来線対策課」を設置(5日)
県民文化スポーツ部
「新図書館整備推進室」を拡充(5日)
- 小松空港国内線駐車場の無料時間延長
- 石川県手話言語条例の施行
- 県と市町が運営する新たな国民健康保険制度がスタート
- いしかわ健康フロンティア戦略2018の策定
- 第2次いしかわ歯と口腔の健康づくり推進計画の策定
- 第3次石川県がん対策推進計画の策定
- 山中漆器産業技術センター「レンタル工房」の開設
- 能登立国1300年記念能登ふるさと博(～2019年3月)
- 「加賀の國」広域観光イベント(～2019年3月31日)
- 「日本の美は、北陸にあり。」キャンペーン(～11月30日)
- 2日 ●キャセイパシフィック航空
小松・香港チャーター便運航(～6月29日、9月24日～10月26日)
- 6日 ●交通安全県民運動(～15日、7月21日～30日、9月21日～30日、12月11日～20日)
- 7日 ●百万石まちながめぐりさくら2018(～8日)
- 8日 ●国立工芸館の起工
- 10日 ●「いしかわ魅力ある福祉職場」認定証の交付
- 13日 ●金沢港ガントリークレーン2号機の完成
- 金沢港県営東部上屋の起工
- 14日 ●第27回いしかわスポーツ・レクリエーション交流大会(～平成31年2月24日)
- 21日 ●いしかわグリーンウェイブ2018(～6月10日)
- 22日 ●奥卯辰山のびのび交流館とんぼテラスの完成
- 26日 ●いしかわ観光創造塾開講
- 27日 ●(株)バイテックベジタブルファクトリーが工場の進出を表明
- のとじま水族館「のと海遊回廊」がオープン
- 28日 ●いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭2018(28日～5月5日)
- 30日 ●東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー(～5月28日)

能登立国 1300 年記念能登ふるさと博 (1日～2019年3月)



能登立国から1300年を迎えたことを記念して、これまで夏と冬の2回開催してきた「能登ふるさと博」を、2019年3月までの通年で開催しました。

能登の豊かな自然や食、祭りなどの魅力を生かした情報発信やイベントを開催し、立国1300年を記念した取り組みも実施しました。

国立工芸館の起工 (8日)

8日、東京から石川県に移転する国立工芸館について、東京オリンピック開催前の開館を目指して、起工式を行いました。

国立工芸館には、国の登録有形文化財である旧陸軍第九師団司令部庁舎と金沢偕行社の2つの建物を移築・活用します。

展示エリア、収蔵エリアに加え、多目的スペースも充実させる予定です。



<工期スケジュール>

2018年1月～	旧第九師団司令部庁舎 金沢偕行社解体工事着手
2018年3月～	本体工事着手
2018年4月8日	起工式
2019年秋頃～	建物完成、からし期間
2020年夏	開館

奥卯辰山のびのび交流館とんぼテラスの完成 (22日)

奥卯辰山健民公園内に、県産の木材をふんだんに使用し、従来の1.5倍の休憩スペースを備えた新たな公園センター「奥卯辰山のびのび交流館とんぼテラス」が完成しました。

テラスは、本公園の最大の魅力である広大な芝生広場に面し、屋内外の一体的な利用が可能になりました。

完成式典では、施設の名前にちなんで、紙で作った「竹とんぼ」を飛ばしました。



(株)バイテックベジタブルファクトリーが工場進出を表明 (27日)

(株)バイテックベジタブルファクトリーから、業務用レタスの需要増加に伴い、七尾市内の中島中学校跡地及びグラウンドに、国内最大規模の植物工場を建設する旨の表明がありました。



のとじま水族館「のと海遊回廊」がオープン (27日)



27日、のとじま水族館の回遊水槽の改修工事が完了し、「のと海遊回廊(かいゆうかいろう)」としてリニューアルオープンしました。

のと海遊回廊では、日本海側で初となるプロジェクションマッピングを新たに導入し、能登の海をテーマとした映像を常時投影し、水槽と一体的に演出され、まるで能登の里海の中にいるような臨場感を味わうことができます。

そのほか、水槽の中を見やすくするために観察ドームを新設するなど、水槽内の魚たちだけでなく、室内全体を楽しめる施設となりました。

東京 2020 オリンピック・パラリンピックフラッグツアー (30日～5月28日)



30日、東京2020大会に向けて開催気運を盛り上げていくことを目的に、オリンピックフラッグ、パラリンピックフラッグ(旗)が全国を巡回するイベント「東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアーフラッグ歓迎イベント」が開催されました。

当日のフラッグ歓迎イベントでは、リオデジャネイロ2016大会女子レスリング金メダリストの川井梨紗子選手がフラッグツアーアンバサダーを務め、川井選手からオリンピックフラッグが知事と志賀町ジュニアレスリング教室の皆さんへ、パラリンピックフラッグが県議会議長と石川特別支援学校の生徒へ引き継がれました。

(主催：東京都／東京2020組織委員会／JOC／JPC)

金沢港と横浜港のクルーズ船誘致に向けた連携協定締結（11月16日）

11月16日に、日本を代表する港である横浜港との間でクルーズ船の誘致に関する連携協定を締結しました。

さらなるクルーズ誘致を進めるため、海外のクルーズ見本市に共同で出展するなど、海外の富裕層向けクルーズの誘致に向けたポートセールスを実施するほか、北陸新幹線の活用による両港を発着地とした比較的短期間のクルーズ商品の開発などに、両港が連携して取り組みます。



金沢港には大型クルーズ船が入港しています

金沢港ガントリークレーン2号機の完成、金沢港県営東部上屋の起工（4月13日）



4月13日、金沢港でのコンテナ取扱量のさらなる拡大を見込み、平成26年から整備を進めてきたガントリークレーン2号機が完成しました。

これにより、さらに大型の機械等も扱うことが可能となりました。

同日、金沢港県営東部上屋（新たなコンテナ土屋）の起工式もあわせて行いました。

今後、金沢港の物流の拠点港としての一面も強化していきます。

金沢港クルーズターミナルの起工（11月18日）

金沢港機能強化整備に基づき、クルーズ船で訪れる乗船客の利便性を向上するとともに新たな賑わい創出の拠点として、老朽化したみなと会館を建て替え、「金沢港クルーズターミナル」を整備しています。

11月18日に起工式を行い、東京オリンピック・パラリンピックの前年度である2019年度の完成を目指しています。



クルーズターミナルの完成イメージ

5月の 主な出来事

●新たな県立図書館の整備に向けた基本設計のとりまとめ

●東京オリンピック・パラリンピックに向けた事前合宿の誘致推進
ニュージーランド(2日～11日)
カナダ(10月21日～26日)

1日 ●大阪有機化学工業(株)が増設を表明

12日 ●いしかわインターンシップフェス
(冬:12月27日)

13日 ●自治体消防70周年記念石川県大会

19日 ●旧陸軍第九師団司令部庁舎・金沢偕行社見学ツアー(～20日)

20日 ●南加賀道路粟津ルートの開通

●主要地方道山中伊切線塔尾バイパスの開通

22日 ●石川ナンバー図柄入りナンバープレートの決定

24日 ●日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間 ～北前船寄港地・船主集落～」に小松市・輪島市を含む全国25市2町が追加認定

27日 ●女性消防団員専門知識向上セミナー

●都市計画道路釜屋谷塚田線の完成

28日 ●石川県防災会議

新たな県立図書館の整備に向けた基本設計のとりまとめ



新たな県立図書館の整備に向けて、基本設計をとりまとめました。
外観は、「本のページをめくる」というイメージを表現させる、落ち着いた色合いの大型パネルとガラス面とが交互に折り重なる形に設計しました。

建物内部は、中央の開放的な吹き抜けの周りを書架が取り囲む、日本国内の公共図書館では類を見ない円形劇場のような大閲覧空間に設え、来館された方に、多くの書物に囲まれながら、館内を「めぐる」楽しさを体感していただきたいと思います。

また、8月には実施設計に着手し、引き続き開館に向けた作業を進めています。

東京オリンピック・パラリンピックに向けた事前合宿の誘致推進

東京オリンピック・パラリンピックの開催を見据えた合宿として、木場漕力ヌー競技場で、5月にはニュージーランドのカヌー選手、10月にカナダのパラカヌー選手を受け入れました。

(合宿期間)

ニュージーランド：5月2日～11日 カナダ：10月21日～26日



大阪有機化学工業(株)が増設表明(1日)



半導体製造用薬剤原料で世界シェアトップの大阪有機化学工業(株)(大阪府)から、高性能な半導体の需要増加に伴い、半導体製造過程で使用する薬剤原料の供給体制を整備するため、白山市松本工業団地の同社敷地内に、生産棟と研究棟を増設する旨の表明がありました。

同社は1981年に進出して以来、本県に生産機能や研究開発機能等を集約しながら、業界のリーディングカンパニーとして発展しており、今回の増設により、石川県での一層の拠点化が図られることになります。

旧陸軍第九師団司令部庁舎・金沢偕行社 見学ツアー(19日～20日)

国立工芸館の移転に向けて解体中の、旧陸軍第九師団司令部庁舎と金沢偕行社(かいこうしゃ)の内部を見学できるツアーを開催しました。

両建物は、国の登録有形文化財であり、外観や内部には建設された明治時代を感じさせる特徴が多数見受けられます。

参加者は普段入ることができない建物の内部に興味深く見学し、工芸館移転に対する期待がより一層高まりました。



石川ナンバー図柄入りナンバープレートの決定(22日)

地域振興と観光振興を目的に、石川県と石川ナンバー地域15市町が国に提案した「石川ナンバー図柄入りプレート」のデザインが決定しました。

白山と能登の里海の波をコンセプトにデザインし、波で石川県の形を表現しています。

10月1日にナンバープレートの交付が開始し、石川県の公用車への取り付けを行いました。



6月の 主な出来事

●プラチナルート白山周遊キャンペーン(～11月)

1日 ●エバー航空小松・台北便就航10周年

10日 ●金沢城公園鼠多門整備工事の起工

13日 ●ライチョウのヒナの誕生

18日 ●いしかわ耕稼塾開講

20日 ●石川県と県内トップスポーツチームとの包括連携に関する協定

●一般事業主行動計画の策定・公表の義務の対象範囲を拡大(いしかわ子ども総合条例改正)

●安全運転サポート車の購入に対する助成制度の創設

21日 ●業務効率化・省力化に向けAIやIoTを活用する企業への支援(～8月2日、10月15日～11月21日)

26日 ●(株)JOLEDが事業所開設を決定

28日 ●白山火山防災訓練

29日 ●ホストタウンの交流相手国の追加(英国、フランス、カナダ、モザンビーク)

●柳倉1号通常砂防事業の完成

30日 ●「観能の夕べ」公演(7月7日、14日、21日、28日、8月4日、11日、18日、25日)

エバー航空小松・台北便就航 10 周年



6月に、エバー航空が運航する小松・台北便の就航が10周年を迎え、これを記念して、式典やイベントが行われました。

エバー航空小松・台北便は、80%を超える搭乗率を維持しており、今後により多くの訪日観光客の利用が期待されます。

金沢城公園鼠多門整備工事の起工 (10日)

鼠多門は、金沢城西側の玉泉院丸に位置する櫓門であり、1884年に焼失しました。県は、2014年より復元に向けた調査を行い、東京オリンピック・パラリンピック開催前の完成を目指して、起工式を行いました。

復元により金沢城の魅力と価値が一層高まり、賑わい創出につながるほか、伝統的建造技術の継承が図られ、石川の匠の技を県内外に発信する機会となります。

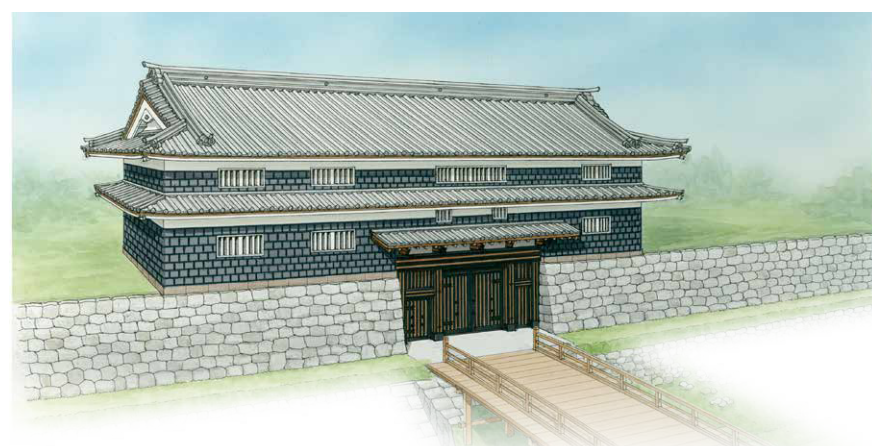
屋根は鉛瓦、外壁は白漆喰塗り、腰壁は海鼠壁仕上げとなっていて、海鼠壁の目地には黒漆喰が用いられています。この黒漆喰は、城郭建築では全国的にも例のない、鼠多門の大きな特徴となっています。



<概要>

建造物概要：(構造) 櫓門、入母屋造、木造2階建て 門部地階
(規模) 高さ約12m、延床面積323.84㎡
(仕上) 櫓部外壁漆喰塗り、鉛瓦葺

工事期間：2017年度～2020年度



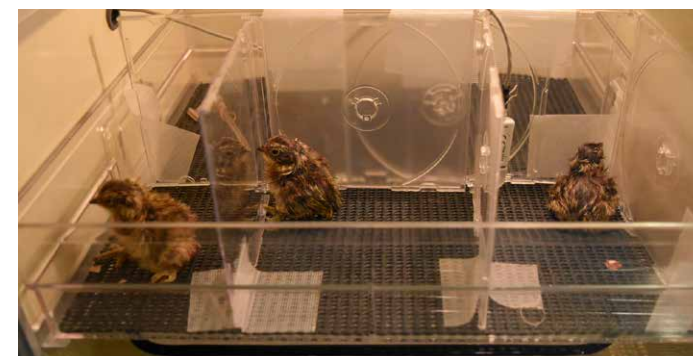
ライチョウのヒナの誕生 (13日) ライチョウのメス成鳥1羽を受け入れ (12月14日)

いしかわ動物園では、これまで近縁種によるライチョウの飼育繁殖技術の習得に努めてきました。

2017年度には全国で4施設目となるライチョウの飼育施設に選定され、6月に受け入れた受精卵3卵が6月13日にすべてふ化し、順調に成育しました。

こうした取組が高い評価を受け、さらに、オス、メスの成鳥各1羽を受け入れることが決定し、2019年春から繁殖に取り組むことになりました。

12月14日には、上野動物園からいしかわ動物園にメスの成鳥1羽が一足早く到着しました。



石川県と県内トップスポーツチームとの包括連携に関する協定 (20日)

石川県のスポーツ振興やスポーツを通じた地域の活性化を図るため、県と県内トップスポーツチームが、スポーツ振興を核とした包括的な連携協定を締結しました。

この協定締結により、県内学校でのスポーツ教室の開催や、観光誘客に向けたPR活動の実施など、今後幅広い分野で連携していきます。

締結チーム

ツエーゲン金沢 (サッカー)
石川ミリオンスタース (野球)
金沢武士団 (バスケットボール)、
北國銀行ハンドボール部 Honey Bee
P F Uブルーキャッツ (バレーボール)
金沢学院クラブ (バドミントン)



(株)JOLEDが事業所開設を決定 (26日)



石川県に有機ELディスプレイの研究開発拠点を置く(株)JOLED (東京都)が、能美市のジャパンディスプレイ旧能美工場を取得し、同社能美事業所として開設する旨を公表しました。

同事業所では、世界で初めて開発した、これまでより低コストで生産が可能な印刷方式により、車載向けや医療向けの有機ELパネルの量産化を図ることとしています。

2020年の操業開始を予定しており、フル稼働時には従業員を約300人配置することを見込んでいます。

7月の 主な出来事

- 1日 ●いしかわ家庭版環境ISO
「省エネ・節電アクションプラン」
(～9月30日)
●いしかわクールシェア(～9月30日)
- 5日 ●**㈱穴水村田製作所が増設を表明**
- 6日 ●女性・高齢者等人材創出プロジェクトの開始
- 7日 ●**のと里山空港開港15周年**
- 9日 ●**長津工業㈱が工場の増設を表明**
- 10日 ●**平成30年7月豪雨(西日本豪雨)に係る被災地への支援**

●省エネ家電普及キャンペーン
(～12月31日)
- 11日 ●県民一斉防災訓練
(シェイクアウトいしかわ)
- 13日 ●ILAC紹介キャンペーンの実施
- 19日 ●香港ビジネス商談会
- 21日 ●いきいきシニアドライブ相談会
(9月10日、14日、27日、10月26日)

●**いしかわ動物園「トラ舎新屋外展示施設」がオープン**
- 22日 ●金沢市副都心北部直江土地区画
整理 事業の完工
- 24日 ●地産地消交流会(秋:11月1日)
- 25日 ●子ども消防学校(～26日)

●都内大手企業における「いしかわ
百万石物語展」の開催
(10月19日、11月1日～2日、11月
16日)
- 27日 ●進学する高校生を対象とするい
しかわふるさとセミナー(～28日)

●三昧谷川通常砂防事業の完成
- 28日 ●石川県消防操法大会
- 31日 ●いしかわ版里山づくりISOの認証
(12月26日)

●河北潟干拓地「ひまわり村」の開
村

㈱穴水村田製作所が増設を表明 (5日)

㈱穴水村田製作所から、穴水町の既存工場内の生産スペースを拡充するとともに、自社敷地内に新たに事務棟を建設する旨の表明がありました。

今回の増設は、自動車向け電子部品等の需要の高まりに対応するため、生産能力の増強を目的としており、新たに約10人を雇用する計画です。



のと里山空港開港15周年 (7日)



のと里山空港が開港から15周年を迎え、7日、8日の2日間にわたり記念イベントを開催しました。

イベントでは、園児による遊戯や15周年人文字撮影会、小学生対象の航空教室などが行われ、約3,600人が訪れました。

また、開港15年目の(2017年7月7日～2018年7月6日)の利用者数が過去最高の162,903人、搭乗率は過去2番目に高い69.2%となり、搭乗率保証制度に基づき全日空から販売促進協力金を12年ぶりに受領しました。

のと里山空港の搭乗率は4年連続上昇しており、今回69.2%の搭乗率を達成した背景には、首都圏発の能登のふぐ料理を味わうツアーなどが好調なことがあげられます。

長津工業㈱が工場増設を表明 (9日)



建設機械部品を製造する長津工業㈱(京都府)から、小松市串工業団地の自社所有地内に、新たに工作機械部品の製造工場を建設する旨の表明がありました。

今回の増設は、従来の建設機械部品の製造に加え、工作機械分野への新規進出による事業領域の拡大を図ることを目的としており、新たに約15人を雇用する計画です。

長津工業は、すでに南加賀地域に合計3か所の工場を設け、生産体制を強化しているところであり、今回の増設により、石川県で一層の拠点化が図られることになります。

平成30年7月豪雨(西日本豪雨)に係る被災地への支援 (10日～)

6月28日から7月8日にかけて、西日本を中心に降雨が続き、九州北部、四国、中国などの各地方の観測地点で時間降水量が観測史上第1位を更新するなど、全国的に広い範囲で記録的な大雨となりました。この大雨の影響で、河川の氾濫、浸水害、土砂災害等が発生し、甚大な被害を受けました。

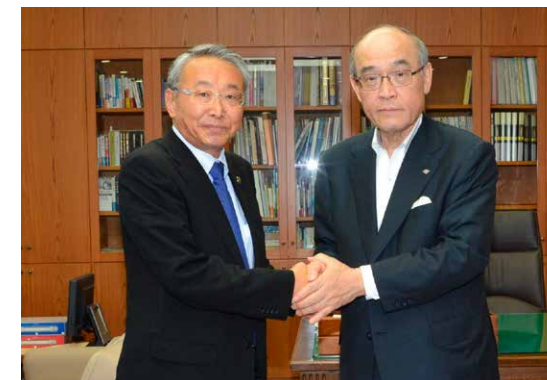
石川県では7月10日より、対口支援方式が実施され、調整窓口である総務省からの要請により、広島県江田島市に対して職員等の派遣を実施し支援に取り組みました。

また、その他の要請に基づき、広島県、愛媛県、岡山県に対しても支援も実施しました。

※対口支援：被災市町村ごとに支援する都道府県や政令指定都市を定める方式



石川県は、広島県江田島市へボランティアバスを運行しました。延べ209名が参加し、土砂の除去などの支援を行いました。



石川県を訪れた明岳江田島市長

いしかわ動物園「トラ舎新屋外展示施設」がオープン (21日)



2017年7月にホワイトタイガー「クラウン」がやってきたのを機に、いしかわ動物園のさらなる魅力向上を図るため、「ネコたちの谷」にトラの新屋外展示施設を整備し、21日にオープンしました。

なわばりを見まわる習性を活かし、トラが観覧者の頭上を歩く迫力ある姿を観察できる地上3.5メートルの高さの「空中回廊」や、大型ガラスの観覧スペースを設置するなど、トラの生態をより詳しく観察できる工夫を施しました。

8月の 主な出来事

- 1日 ●石川県医学部進学セミナー
- いしかわGAP認証制度の創設
- 2日 ●(株)バイテックファーム
七尾 中能登工場出荷式典
- 4日 ●第17回日本スカウトジャンボリー
(～10日)
- 9日 ●白帆台団地県営住宅第1期の完成
- 17日 ●2018いしかわミュージックアカ
デミー(～25日)
- 23日 ●都市計画道路粟津街なか線の完成
- 24日 ●いしかわ百万石マルシェ2018夏

●東京都内の市場・百貨店でルビー
ロマンをPR
- 25日 ●備えて安心!いしかわ防災キャン
ペーン(～9月9日)
- いしかわ環境フェア2018、いし
かわの里山里海展2018(～26
日)
- 26日 ●地域安全マップ作成モデル事業
の実施(10月6日、11月18日)
- 27日 ●8月～9月の能登地域を中心とし
た大雨被害(～9月1日)
- 31日 ●鹿島興亜電工(株)が増設を表明

(株)バイテックファーム七尾 中能登工場出荷式典(2日)

(株)バイテックファーム七尾の中能登工場で栽培されたリーフレタスが初めて出荷されました。

中能登工場は、七尾工場に続く2カ所目の生産拠点となります。



いしかわ百万石マルシェ 2018 夏、 東京都内の市場・百貨店でルビーロマンをPR (24日)

24日、東京で、石川県が誇る農林水産物などのPR活動を行いました。県外でもPR活動を行うことで、よりブランドとしての魅力が増すことが期待されます。

今回は、都内の市場と百貨店において、谷本県知事が県産高級ぶどう「ルビーロマン」のトップセールスを行ったほか、県産食材の見本市である、いしかわ百万石マルシェ 2018 夏において、県産なしの新品種「加賀しずく」や、七尾湾で育成された「能登とり貝」など、様々なブランド食材を都内のレストランシェフなどにPRしました。



8月～9月の能登地域を中心とした大雨被害(27日～9月1日)

8月27日から9月1日にかけて、北陸地方に前線が停滞し、この前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んで、大気の状態が不安定となったため、能登地域を中心に大雨が降りました。

気象庁の七尾観測所や志賀観測所において、1日の降雨が、平年8月の1ヵ月分を上回る雨量を観測。特に3時間雨量については、気象庁の七尾観測所で122mm、県が設置している中島観測所で103mmが観測されるなど、七尾市を中心に、能登地域の21の観測所で観測史上最大となる雨量を記録しました。

この大雨は、県内各地に甚大な被害を及ぼしました。県が管理する11河川で氾濫による被害が発生したほか、住家や河川、道路などに浸水や土砂崩れ等の被害が発生しました。そのほか、公共交通機関などにも運休等の大きな影響がありました。



鹿島興亜電工(株)が増設を表明(31日)

電子部品製造の鹿島興亜電工(株)から、中能登町の既存工場内の生産スペースを拡充し、生産能力を引き上げるとともに、自社敷地内に新たに厚生棟を建設する旨の表明がありました。

今回の増設は、自動車向け電子部品等の需要の高まりに対応するため、生産能力の増強を目的としており、新たに約10人を雇用する計画です。

さらに、同社では、抵抗器で世界シェアトップである親会社のKOA(株)(長野県)から開発部門を一部移管し、石川県での拠点化を進めることとしています。



第 17 回日本スカウトジャンボリー（4日～ 10 日）

8月4日から10日までの期間、珠洲市「りふれっしゅ村鉢ヶ崎」を主会場に、第17回日本スカウトジャンボリーが開催されました。

日本スカウトジャンボリーは、キャンプ生活を通して日頃のスカウト活動を実践し、相互の友情を深め、青少年の自律的成長を促すことを目的として、4年に1度開催される国内ボーイスカウト運動最大の国際キャンプ大会です。石川県での開催は、平成18年の珠洲市での開催以来、12年ぶり2回目となります。

大会には、皇太子殿下のご臨席を賜り、国内外から1万3千人を超えるスカウトが参加しました。



今回ご来県された皇太子殿下は、揚浜式と呼ばれる伝統の製塩技術を守り継ぐ角花家や、世界農業遺産に認定された「能登の里山里海」の代表的な景観である白米千枚田など、2日間にわたり県内各地をご視察されました。

皇太子殿下のご来県は、昨年行われた第28回全国「みどりの愛護」のつどいに続き、2年連続となりました。



宗玄酒造（珠洲市）



白米千枚田（輪島市）



角花家（かくはなけ）の伝統的な揚浜式製塩（珠洲市）



特別養護老人ホームゆきわりそう（輪島市）



塩づくりにまつわる民謡「砂取節」（珠洲市）



9月の 主な出来事

●いしかわ中小企業チャレンジ支援ファンドを創設

1日 ●オーケストラ・アンサンブル金沢
新芸術監督就任

5日 ●開業効果を引き出すためのアクションプラン検討有識者委員会の設置
民間から施策のアイデア等募集

6日 ●金沢城二の丸御殿調査検討委員会を設置

9日 ●一般国道416号福井・石川県境道路の開通

19日 ●日本ガイシ(株)が工場の増設を表明

22日 ●ふるさと石川の医療を守る集い
in能登(～23日)

24日 ●石川県ドクターヘリの運航開始

25日 ●山岸一男氏の重要無形文化財保持者(人間国宝)認定

27日 ●北陸新幹線(金沢・敦賀間)のレール陸揚げ作業が開始

28日 ●県育成・米新品種ひやくまん穀の新米発売に係る記念イベント(30日)

30日 ●石川県障害者ふれあいフェスティバル

いしかわ中小企業チャレンジ支援ファンドを創設

2008年度に、国、県、地元金融機関の資金拠出により「活性化ファンド」を創設し、総額300億円の基金の運用益により地域資源を生かした新商品開発等を支援してきました。この10年間で支援した案件の約9割が商品化につながっていることや、県と金融機関が一体となって企業をサポートしていることが、国から高く評価され、国の出資金がさらに10年延長されました。

9月、この延長を機に、中小企業の新たな事業展開を一層後押しするため、金融機関の協力を得て、ファンドの規模を100億円上積みし、総額400億円の「いしかわ中小企業チャレンジ支援ファンド」を創設しました。



オーケストラ・アンサンブル金沢 新芸術監督就任 (1日)



オーケストラ・アンサンブル金沢の芸術監督に、フランス・ボルドー国立歌劇場総監督で、世界で活躍する指揮者のマルク・ミンコフスキさんが就任しました。

金沢城二の丸御殿調査検討委員会を設置 (6日)

1881年の火災により全焼した、二の丸御殿についての調査検討委員会を設置しました。

二の丸御殿は、藩主の住まいや政務の場として機能していた場所であり、2015年に旧陸軍が作成した平面図が発見され、これまで収集してきた絵図、文献などと併せ、江戸後期の御殿の様相が明らかになったことから、調査検討委員会を設置しました。

今後、委員会において復元の可能性を具体的に検討します。



一般国道416号福井・石川県境道路の開通 (9日)

小松市と福井県勝山市を最短で結ぶ、一般国道416号福井・石川県境道路の開通式を行いました。

開通により、県境部の交通不能区間が解消され、石川県側の小松空港や加賀温泉郷と福井県側の恐竜博物館を結ぶ新たな観光ルートが形成されました。



日本ガイシ(株)が工場の増設を表明 (19日)

日本ガイシ(株)から、能美市能美工業団地の石川工場敷地内に、自動車用の排ガス浄化用セラミックスフィルターの原材料となる粉体の生産棟を新たに建設する旨の表明がありました。同社は同フィルターで世界トップクラスのシェアを占めています。

今回の工場増設により、原料の受け入れから粉体の調合、フィルターの生産・出荷の一貫生産体制が整うほか、需要が拡大しているアジアの生産工場へ粉体を供給する役割を担うなど、石川県での拠点化が、より図られることになります。



石川県ドクターヘリの運航開始 (24日)



石川県の救急医療体制の更なる充実・強化を図るため、県立中央病院を基地病院として、ドクターヘリの運航を開始しました。

ドクターヘリは、救急医療に必要な機器などを搭載し、医師・看護師が同乗するヘリコプターで、消防機関からの要請に応じて、救急現場へ向かいます。救急患者への早期の救命措置や、県立中央病院をはじめとする県内の高度医療機関までの搬送時間の短縮により、患者の救命に大きく貢献することが期待されています。



山岸一男氏の重要無形文化財保持者(人間国宝)認定 (25日)



沈金の山岸一男氏が、重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定されました。山岸氏は、1954年に輪島市で生まれ、漆芸の加飾(装飾)技法である沈金を体得し、沈金の一種で彫溝(ほりみぞ)を黒く仕上げる沈黒や、彫溝に色漆等を埋めて研ぐ沈金象嵌(そうがん)と呼ばれる技法を積極的に用いる作風を確立され、沈金の表現の可能性を広げられました。

山岸氏の認定により、県内の人間国宝は9人となりました。

10月の 主な出来事

●オセアニアにおける誘客プロモーションの実施

ニュージーランド・オークランド:18日、
オーストラリア・シドニー:22日

- 1日 ●不法投棄等防止強化月間において隣県と連携した取り組みを実施(～31日)
- 4日 ●家畜伝染病防疫訓練
- 8日 ●金沢城公園鼠多門橋整備工事の起工
- 9日 ●「いしかわA I・I o T技術支援工房」の開所
●漁業取締船「てどり」の竣工
- 10日 ●金沢芸妓の舞(～2019年3月22日)
- 11日 ●石川県交通安全県民大会
- 13日 ●いしかわ介護フェスタ
●いしかわスイーツ博2018(～14日)
- 金沢城シンポジウム「金沢城の庭園ーその歴史と特徴ー」
- 18日 ●石川ジャパニーズ・スタディーズ・プログラムを活用したオセアニアとの国際交流の推進(21日)
- 19日 ●福祉避難所の開設・運営に関する研修会(11月8日、26日)
- 19日 ●働き方改革と女性活躍推進実践講座(11月15日～16日)
- 20日 ●第40回石川の農林漁業まつり(～21日)
- 21日 ●いしかわ文化の日、いしかわ文化推進期間に各種事業を実施(～11月3日)
●第46回石川の技能まつり
- 22日 ●寺井警察署を移転・建て替えし、名称を能美警察署に改称
- 26日 ●エシカル消費シンポジウム
●第65回日本伝統工芸展金沢展(～11月4日)
- 28日 ●能登歴史公園センター・のと里山里海ミュージアムの完成
- 30日 ●炭素繊維分野での事業化促進(～31日)
●シンガポールビジネス商談会
- 31日 ●県内高等教育機関との防災分野における連携に関する協定の締結
●庄谷川通常砂防事業の完成
●月橋2号急傾斜地崩壊対策事業の完成

オセアニアにおける誘客プロモーションの実施 (ニュージーランド・オークランド:18日、オーストラリア・シドニー:22日)

ラグビーワールドカップ、東京オリンピック・パラリンピックを契機に、旅行先として日本への関心が高まっているオーストラリア、ニュージーランドからの誘客を促進するため、官民が連携し、現地の旅行会社やメディア等を対象に、石川県が有する「本物の日本」の魅力を発信する取り組みを実施しました。

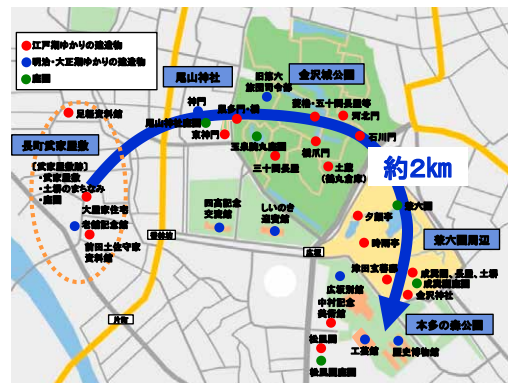
今回のプロモーションにより、ラグビーワールドカップ観戦と石川県旅行を組み合わせた団体ツアー等の追加販売など、具体的な成果が実を結びました。



金沢城公園鼠多門橋整備工事の起工(8日)



6月10日に行われた金沢城公園鼠多門の起工に続いて、10月8日に、鼠多門橋の起工式を行いました。鼠多門橋は、金沢城西側の玉泉院丸と金谷出丸(現・尾山神社)を結ぶ木橋であり、1877年に撤去されてしまいました。整備によって金沢城の魅力ある城郭景観が創出され、長町武家屋敷から尾山神社、金沢城、兼六園、本多の森公園へと続く加賀百万石回遊ルートが形成されます。



「いしかわA I・I o T技術支援工房」の開所(9日)



県内ものづくり企業の生産性向上と、人手不足対策に向けたA I(人工知能)やI o T(モノのインターネット)の導入へのさらなる支援の充実を図るため、9日、技術面の支援拠点となる「いしかわA I・I o T技術支援工房」を工業試験場内に開設しました。

技術支援工房では、実際のA I・I o Tを活用した4台のデモ機の展示、実演や、技術相談、指導等の支援を行います。

能登歴史公園センター・のと里山里海ミュージアムの完成(28日)

28日、能登自動車道と国道159号七尾バイパスの結節点に位置する能登歴史公園(国分寺地区)において、公園利用の拠点となる能登歴史公園センターと、能登全体の歴史・文化を紹介する博物館「のと里山里海ミュージアム」が開館しました。

公園センターには、多目的な活用ができるレクリエーションルームを設け、エントランスホールには、能登地域の工芸品や特産物等の展示を行う「百景棚」を設置するなど、ミュージアムと一体となって、能登の歴史や文化、里山里海の魅力について理解を深めていただける施設となっています。

同日、能登立国1300年能登ふるさと博の一環として、開館記念イベントを開催しました。



県内高等教育機関との防災分野における連携に関する協定の締結(31日)



石川県の特色である高等教育機関の集積を生かし、大学等と連携し、学生の地域防災活動への参加を促進するため、県内高等教育機関と防災分野における連携に関する協定を締結しました。

この協定に基づき、学生の自主防災活動への参加促進など、災害発生時に備えて、様々な連携を行います。

協定内容

- ・学生の自主防災活動への参加促進
- ・学生の防災士資格取得に関する周知機会の提供
- ・災害時における大学施設の提供
- ・県民を対象とした防災関係講座、研究会等への講師派遣

協定の相手方:18 高等教育機関

(金沢大学、金沢工業大学、金沢星稷大学、県立看護大学、北陸学院大学、県立大学、北陸大学、金沢学院大学、金城大学、金沢医科大学、金沢美術工芸大学、小松大学、北陸先端科学技術大学院大学、金沢星稷大学女子短期大学部、金沢学院短期大学、北陸学院大学短期大学部、金城大学短期大学部、国際高等専門学校)

11月の 主な出来事

- 1日 ●いしかわパープルリボンキャンペーン2018(～30日)
●児童虐待防止オレンジリボンキャンペーン(～30日ほか)
- いしかわ教育ウィークで各種事業を実施(～7日)
- 3日 ●百万石まちなかめぐりもみじ2018(～4日)
- 4日 ●いしかわ学生防災フォーラム
●いしかわ食のてんこもりフェスタ
●子育て支援メッセいしかわ2018
- 7日 ●アパレル産業連絡懇談会(～8日)
- 11日 ●石川県原子力防災訓練
●主要地方道能都内浦線真脇トンネルの開通
- 16日 ●金沢港と横浜港のクルーズ船誘致に向けた連携協定締結
- 17日 ●木場潟公園桜回廊事業植樹イベント・記念式典
- 18日 ●金沢港クルーズターミナルの起工
- 23日 ●「石川しあわせ婚応援パスポート」(愛称:婚パス)利用スタート
●保護者のためのいしかわ就職セミナー
- 24日 ●いしかわスポーツキッズフェスタ2018
- 25日 ●石川県防災総合訓練
- 26日 ●第63回水族館技術者研究会秋篠宮殿下のお成り(～27日)
- 27日 ●レスリング世界選手権大会フリースタイル女子59キロ級金メダル川井梨紗子選手にスポーツ特別賞を贈呈
- 29日 ●国指定重要無形民俗文化財「能登のアマメハギ」を含む「来訪神:仮面・仮装の神々」がユネスコ無形文化遺産に登録決定
- 30日 ●いしかわ男女共同参画推進宣言企業「女性活躍加速化クラス」認定書の交付

原子力防災訓練を実施 (11日)

原子力災害に関する防災業務関係者の防災技術の向上と住民の防災意識の高揚を図るとともに、原子力災害の対応体制を検証するため、30km圏内の住民や防災関係機関の参加を得て、原子力防災訓練を実施しました。



主要地方道能都内浦線真脇トンネルの開通 (11日)



老朽化が激しいうえに、大型車とのすれ違いが困難であったため、既設トンネルの拡幅工事を進めていた、主要地方道能都内浦線真脇トンネルが開通しました。新トンネルの開通により、日常生活の安全性、利便性のほか、九十九湾や真脇遺跡(国指定史跡)などの観光拠点へのアクセスも向上しました。

木場潟公園桜回廊事業植樹イベント・記念式典 (17日)

木場潟公園の一周6.4kmの周遊園路を桜並木でつなぐ、桜回廊事業の記念式典及び植樹イベントを開催しました。

この事業は、北陸新幹線県内全線開業を見据え、木場潟公園の一層の魅力向上を図るもので、小松市と連携して寄附を募り、潟周遊に370本の桜を植樹しました。

北陸新幹線の県内全線開業時には、木場潟を取り囲む桜と湖面、雪をまとった白山という、他では得がたい眺望景観を新幹線の車窓から堪能していただけることが期待されます。



「石川しあわせ婚応援パスポート」(愛称:婚パス) 利用スタート (23日)

結婚の際の経済的負担の軽減を図るとともに、社会全体で結婚を応援する気運を醸成するため、「石川しあわせ婚応援パスポート」(愛称:婚パス)の利用を開始しました。

「婚パス」は、1年以内に結婚予定のカップルと結婚後1年以内(2018年4月以降婚姻届提出)の新婚夫婦が対象です。

「婚パス」を協賛店舗で提示することで、割引や特典などのサービスを受けることができます。



いしかわスポーツキッズフェスタ2018 (24日)

6月に包括連携協定を締結した県内トップスポーツチーム(ツエーゲン金沢、石川ミリオンスタース、金沢武士団、北國銀行ハンドボール部HoneyBee、P F Uブルーキャッツ、金沢学院クラブ)の選手たちと親子がスポーツの体験や交流を行う、いしかわスポーツキッズフェスタ2018を開催しました。

フェスタでは、各チームの選手たちと交流できるスポーツ体験イベントなど様々なイベントを実施し、約3,500人にご来場いただきました。



石川県防災総合訓練 (25日)

宝達志水町を中心に、地震や風水害、火災等の各種災害の発生に対応するために、総合的な防災訓練を実施しました。

今回、はじめて石川県ドクターヘリも訓練に参加し、地域住民の災害発生時の避難方法や、救助活動等の対応を確認しました。



第63回水族館技術者研究会 秋篠宮殿下のお成り (26日～27日)

秋篠宮殿下が、26日から27日の2日間、「第63回水族館技術者研究会」ご臨席のため、石川県にお成りになりました。研究会ご臨席の後、秋篠宮殿下は花嫁のれん館や石川県文化財保存修復工房などをご視察されました。

秋篠宮殿下のご来県は、2016年の第100回記念高校相撲金沢大会以来となります。



のとじま水族館 (七尾市)



第63回水族館技術者研究会 (七尾市)



花嫁のれん館 (七尾市)



石川県文化財修復工房 (金沢市)

レスリング世界選手権大会フリースタイル女子 59 キロ級金メダル 川井梨紗子選手にスポーツ特別賞を贈呈 (27日)



レスリング世界選手権大会フリースタイル女子 59 キロ級で優勝した、川井梨紗子選手にスポーツ特別賞を贈呈しました。川井選手の特別賞受賞は、2017年度に続き2度目となります。

川井選手は、贈呈式において、「東京五輪では金メダルを目指します」と決意を語りました。



国指定重要無形民俗文化財「能登のアマメハギ」を含む「来訪神：仮面・仮装の神々」がユネスコ無形文化遺産に登録決定 (29日)

国指定重要無形民俗文化財「能登のアマメハギ」を含む「来訪神：仮面・仮装の神々」のユネスコ無形文化遺産登録が決定しました。

「能登のアマメハギ」は、輪島市と能登町で伝承され、アマメハギやメンサマと称する神が、人里を訪れ、家々を巡り歩き、新たな年を迎えるに当たって怠け者を戒めたり、人々に幸や福をもたらしたりする行事です。

石川県内では、2009年の「奥能登のあえのこと」、2016年の「青柏祭の曳山行事」に続く、3例目のユネスコ無形文化遺産登録となりました。



能登町秋吉のアマメハギ



輪島市門前町のアマメハギ



輪島市輪島崎町の面様年頭

12月の 主な出来事

- 1日 ●石川県白山における火山災害による遭難の防止に関する条例の過料の施行
- いしかわウォームシェア
(～2019年2月28日)
- 5日 ●ILAC大阪の開設
- 6日 ●「いしかわ健康経営宣言企業」認定証の交付
- 7日 ●笹尾通常砂防事業の完成
- 9日 ●いしかわジュニアアートステージ 2018
- 10日 ●世界トランポリン競技選手権大会シンクロナイズド競技金メダル森ひかる選手、宇山芽紅選手にスポーツ特別賞を贈呈
- 12日 ●キャセイパシフィック航空が小松・香港定期便の新規就航を発表
- いしかわエコデザイン賞の贈賞
- 14日 ●ライチョウのメス成鳥1羽を受け入れ
- 21日 ●自主防災組織及び防災士の知事表彰
- 笠師1号急傾斜地崩壊対策事業の完成
- 25日 ●(株)ワイエムシが工場の増設を表明

石川県白山における火山災害による遭難の防止に関する条例の過料の施行 (1日)

火山災害発生時の迅速な安否確認や無理な計画での登山を防止するため、2017年7月、登山届の提出が義務付けられました。

前年に施行した白山登山届の提出義務化に加え、岐阜県に歩調を合わせ、登山届を提出せずに火口周辺に登った登山者に対し、過料を科す規定を施行しました。



ILAC大阪の開設 (5日)

石川県は、いしかわ移住UIターン相談東京センター(ILAC東京)を開設し、これまで首都圏における移住・転職、学生のUIターンの呼びかけを行ってきました。

今後、北陸新幹線敦賀開業などにより、関西圏との交流人口の増加が見込まれることもあり、石川県大阪事務所にいしかわ移住UIターン相談大阪センター(ILAC大阪)を開設しました。

ILAC大阪の開設により、関西圏に進学した石川県出身学生や20～40代の働き盛り世代の移住・UIターン希望者を含む、多様な求職者と県内企業の求人ニーズのマッチング体制を構築し、石川県の移住・定住人口の増加を目指します。



いしかわジュニアアートステージ 2018 (9日)

石川の文化の将来を担う子ども達を次世代の担い手とし育成していくため、多彩な文化・芸術の分野でトップレベルで活躍する子ども達によるステージ発表や作品展示が行われました。



ステージ発表：手取穴龍若鮎組



書道パフォーマンス：能登高校、飯田高校

世界トランポリン競技選手権大会シンクロナイズド競技金メダル森ひかる選手、宇山芽紅選手にスポーツ特別賞を贈呈 (10日)

世界トランポリン競技選手権大会の女子シンクロナイズド競技において優勝した、森ひかる選手、宇山芽紅選手にスポーツ特別賞を贈呈しました。



宇山芽紅選手(左)、森ひかる選手(右)

トランポリン世界選手権での金メダル獲得は、日本女子史上初となる快挙です。

贈呈式で、森選手は「悔いが残らないように東京五輪に臨みたい」と決意を語り、宇山選手は「感謝の気持ちを忘れず、東京五輪に向けて頑張りたい」と意気込みを示しました。両選手の今後ますますの活躍が期待されます。



キャセイパシフィック航空が小松・香港定期便の新規就航を発表 (12日)

石川県の約30年にわたる定期便就航への働きかけが実を結び、キャセイパシフィック航空が、4月3日から小松・香港便を週2便(水・土)運航で新規就航することを発表しました。

この新規就航は小松空港の国際化に向けて、大きな一歩となりました。



(株)ワイエムシが工場の増設を表明 (25日)

分析装置用の充填剤などを製造する(株)ワイエムシ(京都府)から、小松市東部産業振興団地の同社敷地内に、工場を増設する旨の表明がありました。

近年、がん細胞など特定の部位に効力があるバイオ医薬品の需要が世界的に拡大している中で、同医薬品の精製工程で用いられる分離剤の生産能力の増強を図ることを目的としており、新たに約20人を雇用する計画です。



石川県民の歌

行進曲風に

梅木宗一 作詞
窪田新一 作曲

16 *mf*

は く さーんー にー あさ ひ は

は えー てー あ お ぐ もー のー は れ

mp

ゆ く と こー ろー なにかお る

れきしをつぎて むすばれ しー われらけ んみん

cresc *f*

やくしん のー はたをかざして お お わ が

い し か わ ふ る い お こ さ んー

三、 日本海 希望の日 いでゆわき この国土 人の和に おおわが石川	二、 加賀平野 海山の うちつどう 工芸の はるかなる おおわが石川	一、 白山に 青雲の 名にかおる むすばれし 躍進の おおわが石川
北にひらけて 明けゆくところ 地はゆたかなり いよよ栄えて 世界を結ぶ 歌いたたえん	能登半島に さち呼ぶところ ちまたに野辺に 花咲きにおい 稲田はみのる ひらきのぼさん	朝日ははえて はれゆくところ 歴史をつぎて われら県民 旗をかざして ふるいおこさん

(昭和34年11月3日制定)



石川県旗

(昭和47年10月1日制定)

「石川」の文字と石川の地形をデザイン化したものです。地色の青は、日本海と豊かな緑・清い水・澄んだ空気という石川の恵まれた自然環境を表しています。



郷土の花 クロユリ

(昭和29年3月19日)

NHKが「郷土の花」として選んだもの。白山の弥陀ヶ原、室堂平（標高2,300～2,500メートル）付近に多く自生しています。風雪に耐えて咲くかれんな姿は、広く県民から親しまれています。



県鳥 イヌワシ

(昭和40年1月1日指定)

白山連峰に生息する日本最大級のワシで、英語でジャパニーズ・ゴールデン・イーグルと呼ばれています。翼を広げると2メートルにもなる雄々しい姿と勇猛果敢な性格は、ますます躍進する石川県を象徴しています。撮影：須藤一成



県の木 あて

(昭和41年10月1日指定)

緑の環境づくりと木を愛する心を広めようと、県民のみささんから募集して決めました。能登地方に多く生育するヒノキアスナロで、北陸地方では「あて」と呼んでいます。家具や建築材、輪島塗の素材にも多く使われています。

平成30年(2018)県政記録いしかわ

発行 平成31年3月

発行者 石川県広報広聴室
〒920-8580 金沢市鞍月1丁目1番地
電話 076 (225) 1362

石川県ホームページ内
<http://www.pref.ishikawa.lg.jp/kenmin/kouhou/kenseikiroku/index.html>

2018

県政記録いしかわ